

令和7年度 学習シラバス

— 第3学年 —



鈴鹿市立神戸中学校

3年 【国語】

教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習のしかた

- ・【見通しをもつ】学習課題や目標を確認し、学習の見通し（どんな方法で、どんな人と、どれだけの時間で取り組めばよいか等）をもとう。
- ・【集める・整理する】文章や資料をよく読み、課題解決に必要な情報を集めよう。また、集めた情報を内容ごとに整理しよう。このとき、わからない語句の意味について積極的に調べたり、本文を何度も読み直したりすると理解が深まります。
- ・【内容を捉える】文章の構成や登場人物の心情の変化などに注意して、内容を捉えよう。
- ・【組み立てる】自分の考えが相手にわかりやすく伝わるように、自分の考えを組み立て、意見の伝え方を工夫しよう。
- ・【伝え合う】友達や先生と自分の考えを伝え合い、自分の表現をより良いものにしよう。
- ・【振り返る】自分が学んだことや、学び方について振り返り、次の学習に生かそう。

※情報を集めたり整理したり表現したりする際には、積極的に友達や先生と考えを共有したり比べたりすることが大切です。また、これまでに習得した学習方法を利用するのも効果的な学習のしかたです。

授業で使用するもの

- ・国語の教科書
- ・ノート
- ・ファイル
- ・ワーク「新・基礎の学習」
- ・漢字ワーク「単元別漢字ノート」
- ・はさみ、のり
- ・書写の教科書（3年間同じものを使います。）
- ・文法ワーク「すらすら基本文法」（3年間同じものを使います。）
- ・便覧「国語便覧」（3年間同じものを使います。）

学期ごとの学習内容と学習のねらい・第3学年

学習すること		学習のねらい
1 学 期	1 オリエンテーション	○授業の進め方を知り、目標を持って積極的に学習に取り組む。
	2 世界はうつくしいと (詩)	○ことばの効果的な使い方など、表現の工夫に注意しながら読む。
	3 握手 (小説)	○作品の展開を踏まえて人物像を捉え、その生き方について考えを深める。
	4 意見を聞き、適切さを判断する (聞く)	○意見を聞くときに、その適切さを判断する。
	5 文法への扉1 文法を生かす (文法)	○文節や連文節の対応、意味のまとまりを意識し、文法を生かす。
	6 説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす (主張・提案)	○聞き手を説得できるように話の構成を考え、場の状況に応じて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する。
	7 言葉1 相手や場に応じた言葉遣い (言葉)	○相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。
	8 学びて時に之を習ふ——「論語」から (漢文・解説)	○人間の生き方についての孔子の考え方を、自分たちと関連づけて考える。
	9 作られた「物語」を超えて (論説)	○論説の特性を踏まえて読み、論理の展開のしかたを捉える。
	10 具体化・抽象化 (思考)	○具体と抽象の関係を理解する。
	11 論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く (小論文)	○読み取った情報を基に、論理の展開を意識して構成を考え、説得力のある文章を書く。
	12 漢字1 熟語の読み方 (漢字)	○熟語の読み方について理解する。
	13 俳句の可能性 (俳句・解説)	○俳句の作者の表現意図を考え、表現のしかたを評価する。
	14 俳句の創作教室 (創作)	○自分の心の中にあるイメージや感情を俳句にする。
	15 俳句を味わう (俳句)	○俳句に表現されている季節や情景、作者の思いなどを捉える。
	16 言葉の釣り糸を垂らす (随筆)	○文章に表れた筆者のものの見方や考え方について考える。
	17 言葉2 和語・漢語・外来語 (言葉)	○和語・漢語・外来語の違いについて理解する。

2 学 期	1 挨拶——原爆の写真によせて (詩)	○詩の表現の効果を評価し、現代社会の状況と重ね合わせながら考えを深める。
	2 故郷 (小説)	○作品を批判的に読み、時代や社会の中で生きる人間の姿について考える。
	3 論理の展開を整える(推敲)	○論理の展開や内容に関わる点に着目して、文章を整える。
	4 言葉3 慣用句・ことわざ・ 故事成語 (言葉)	○慣用句・ことわざ・故事成語について理解する。
	5 聞き上手になろう 質問で相 手の思いに迫る (対話・質問)	○相手の話の展開を予測しながら聞き、質問で話を引き出す。
	6 漢字2 漢字の造語力 (漢字)	○漢字の造語力について理解する。
	7 複数の意見を読んで、考えよ う——正解が一つに決まらな い課題と向き合う (論説)	○文章を批判的に読み、論理の展開や表現のしかたを評価する。
	8 考えを効果的に伝えよう 多 角的に分析して批評文を書く (批評)	○自分の考えが効果的に伝わるように、表現のしかたや論理の展開を工夫し、助言し合う。
	9 文法への扉2 文法のまとめ (文法)	○文法全般を理解する。
	10 初恋 (詩)	○言葉の響きやリズムを味わう。
	11 君待つと——万葉・古今・新 古今 (古文)	○和歌に詠まれた情景や心情を読み取り表現のしかたを評価する。
	12 夏草——「おくのほそ道」か ら (古文)	○文章に表れている作者のものの見方や感じ方について考える。
	13 それでも、言葉を (評論)	○筆者の見方・考え方を踏まえ、言葉について自分の意見をもつ。
	14 漢字3 漢字のまとめ (漢字)	○漢字全般を理解する。
	15 話し合いを効果的に進めよう (話し合い)	○効果的な話し合いの進め方について考える。
	16 合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く (議論)	○多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。
	17 書写	○三年間で学習したことをいかす。

3 学 期	1	本は世界への扉	(読書)	○遠く離れた国や地域で活動する人たちが捉えた世界を感じる。
	2	温かいスープ	(随筆)	○文章を読み、国際社会における人と人との関係について、考えを深める。
	3	アラスカとの出会い	(随筆)	○文章を読み、人との出会いや人生について、考えを深める。
	4	律儀な桜	(随筆)	○文章を読み、人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。
	5	わたしを束ねないで	(詩)	○詩の中の言葉や表現から作品のもつメッセージを捉え、自分の可能性について考える。
	6	三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする	(発表)	○構成を工夫し、内容を効果的に伝える。
	7	初日	(詩)	○詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。

評 価 方 法 及 び 評 定 に つ い て

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・ 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・ 定期テストの観点別問題 ・ 漢字テスト ・ 暗唱 ・ 書写 ・ ワークシート 等
思考・判断・表現	・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・ 定期テストの観点別問題 ・ スピーチ ・ ディスカッション ・ 読書感想文 ・ ノート ・ ワークシート 等
主体的に学習に取り組む態度	・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養っている。	・ 授業中の行動観察 ・ ノートや振り返り等の記述 ・ 課題への取り組み方 等

3年 【社会】

教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う国民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

テーマ：「防災・安全」「環境・エネルギー」「伝統文化・宗教」「人権・平和」

学習のしかた

- ・ 日常の授業への意欲的な取り組みが一番大切です。そのためにも、忘れ物をせず授業の準備をして、積極的に取り組みましょう。
- ・ 自分なりに考えて意見を持ちましょう。
- ・ 自分の考えをしっかりと発信しましょう。
その際には、資料や今までの学習などの根拠をもとに、理由も踏まえながらの発信に心がけましょう。
- ・ ほかの人の考えにもしっかりと耳を傾けましょう。自分の意見と比べてみて同じところや違うところはどこか考え、それによってさらに思考を深めていきましょう。
- ・ 定期テストについては、普段の授業の内容をワークやプリントの問題などを使ってよく復習しておきましょう。
- ・ ワークやノートについては定期的に提出をしてもらいます。提出日は予告をしますから、期限を守って計画的に取り組め、提出しましょう。
- ・ ノートへは、黒板に書かれたことだけでなく、自分で気づいたことやポイントだと考えるところを積極的に書きましょう。
- ・ 新聞やテレビから、社会で起こっている出来事を知りましょう。授業で学習した内容との関連を見つけるとともに今起こっていることへの社会事象への関心を高めましょう。
- ・ 学習した内容に関連する資料を集めたり、調べものをしたりして、追究を深めましょう。

授業で使用するもの

教科書、ノート（プリント）、資料集、ワーク、クロムブック、ファイル

学習すること		学習のねらい
一学期	歴史 第5章 開国と近代日本の歩み 2 欧米の進出と日本の開国 3 明治維新 4 日清・日露戦争と近代産業 第6章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と日本 2 大正デモクラシーの時代 3 世界恐慌と日本の中国侵略 4 第二次世界大戦と日本 第7章 現代の日本と私たち 1 戦後日本の出発 2 冷戦と日本の発展 3 新たな時代の日本と世界	・開国から江戸幕府滅亡までの過程を、欧米諸国の動きと関連させて理解する。 ・明治維新のあらましを理解し、新政府によって近代国家への基礎が整えられたことに気づき、人々の生活の大きな変化を考える。 ・近代化を進めた日本の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して理解する。 ・政府の富国強兵・殖産興業政策のもとで進展した日本の近代産業が産業革命を経て発展したことや、その中での国民生活の変化について理解する。また、都市を中心に文化の大衆化が進んだことに気づく。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましを理解し、民族運動の高まりや国際平和への努力、日本国民の政治への関心の高まりに気づく。 ・昭和の初めから第二次世界大戦終結までの日本の政治や外交の動き、アジア諸国との関係、欧米諸国の動きに注目し経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解するとともに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ・大戦後、日本が国際社会に復帰するまでの民主化と再建の過程や国際社会への参加について理解する。 ・高度経済成長以降の日本の動きを世界の動きと関連してとらえ、経済や科学技術の発展と国際社会での日本の役割が大きくなったことを認識する。
二学期	公民 第1章 現代社会と私たち 1 現代社会の特色と私たち 2 私たちの生活と文化 3 現代社会の見方や考え方 第2章 個人の尊重と日本国憲法 1 人権と日本国憲法 2 人権と共生社会 3 これからの人権保障 第3章 現代の民主政治と社会 1 現代の民主政治 2 国の政治の仕組み 3 地方自治と私たち	・自分たちが生きる現代社会を概観し学ぶことで、公民的分野への関心を高め、政治や経済、国際社会の学習の基礎的な見方や考え方を学ぶ。 ・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に、具体的な活動などを通して意欲的に追究するとともに、法の意義を理解する。 ・日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重・国民主権・平和主義）を、社会の形成者としての立場から具体的な生活のかかわりを通じて理解し、個人の尊厳と両性の本質的平等、自由・権利と責任・義務の関係が社会性の基本となっていることに気づく。 ・身近で具体的な事例を通して政治に関心を持たせ、主権者として進んで政治に関わっていこうとする姿勢を育てる。 ・国会・内閣・裁判所の地位や役割、互いの関係を学ぶ。また、三権分立の原則によって国民の自由や権利が守られていることを学び、政治参加に必要な知識と態度を養う。 ・地方自治のしくみを身近な地域社会での事例を通して学習し、現代社会の一員としての態度を育てる。

三 学 期	第4章 私たちの暮らしと経済 1 消費生活と経済 2 生産と労働 3 市場経済の仕組みと金融 4 財政と国民の福祉 5 これからの経済と社会	・市場経済の基本的な考え方や価格の決まり方・役割、金融の働きのあらましを学ぶ。 ・国民生活と福祉の向上に関わって国や地方公共団体が果たしている役割について学び、税を負担することを通じて社会づくりに参加する態度を育てる。
	第5章 地球社会と私たち 1 国際社会の仕組み 2 さまざまな国際問題 3 これからの地球社会と日本 終章 より良い社会を目指して	・地球全体を意識して、よりよい社会を築いていくために解決すべき問題について学習し、これからの国際社会の課題を解決していく方法を考える。 ・国連に関する学習などを通じて世界平和の実現のために、各国が互いに主権を尊重しあい、協力し合うことが重要であることを学ぶ。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	社会的事象を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べている。	・定期テスト ・単元テスト ・授業中のとりくみ (発言・グループ様子)
思考・判断・表現	・社会的事象を多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	・定期テスト ・単元テスト ・レポート課題 ・ノート、プリントなどの記述 ・振り返りシートの記述 ・授業中のとりくみ (発言・グループ学習等の様子)
主体的に学習に取り組む態度	・社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	・授業中のとりくみ (発言・グループ学習等の様子) ・ノート、プリントなどの記述 ・振り返りシートの記述 ・レポート課題

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通りの場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

3年 【数学】

教科の目標

数学的な活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、
数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的
活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育て
る。

学習のしかた

- ・ 授業前に準備物を用意し、チャイム着席をする。
- ・ ノートは、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・ 問題に取り組むときは、答えだけでなく途中の式も書くようにする。
また、間違えた答えは消さずに残しておく。
- ・ 積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかり聞く。
また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・ 授業を受ける前に予習をしておき、授業で習ったことは、その日のうちに復習をしておく。
- ・ たくさんの問題に取り組み、難しい問題にもあきらめず挑戦していく。

授業で使用するもの

教科書、ノート、ワーク、ファイル

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	1章 式の展開と因数分解 ・式の展開と因数分解 ・式の計算の利用	○式を扱いやすい形に変える方法として、展開や因数分解することを理解し、見通しをもって、式を効率的に活用できるようにする。
	2章 平方根 ・平方根 ・根号をふくむ式の計算 ・平方根の利用	○数の平方根について理解し、数の概念の理解をいっそう深めるとともに、数を用いてものごとをいっそう広く考察・処理することができるようにする。
	3章 二次方程式 ・二次方程式 ・二次方程式の利用	○簡単な二次方程式やその解法を理解し、二次方程式を用いて実際の問題を解決できるようにする。
2 学 期	4章 関数 $y=ax^2$ ・関数 $y=ax^2$ とグラフ ・関数 $y=ax^2$ の値の変化 ・いろいろな事象と関数の利用	○具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べ、関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知る。また、その特徴を調べ、問題解決に利用することができるようにする。
	5章 図形と相似 ・図形と相似 ・平行線と線分の比 ・相似な図形の計量 ・相似の活用	○図形の相似の概念を明らかにし、三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解をいっそう深めるとともに、相似の考えが活用できるようにする。
	6章 円の性質 ・円周角と中心角 ・円の性質の利用	○円周角と中心角の意味を理解し、その関係を数理的にとらえられるようにする。また、円周角の定理の逆を利用して、身近な事象の中で活用できるようにする。
3 学 期	7章 三平方の定理 ・直角三角形の3辺の関係 ・三平方の定理の利用	○三平方の定理について理解し、それらを活用することができるようにする。
	8章 標本調査とデータの活用 ・標本調査	○標本調査と全数調査の意味を知り、標本調査の必要性を理解する。また、標本調査を用いて母集団の傾向をとらえられるようにする。
	※三年間の復習	○入試問題形式のプリントを使って入試問題に慣れる。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	- 単元テストの観点別問題 - 定期テストの観点別問題 - ノートの記述内容 - ワークシートの記述内容 等
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	- 単元テストの観点別問題 - 定期テストの観点別問題 - ノートの記述内容 - ワークシートの記述内容 等
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。	- 単元テストの観点別問題 - 定期テストの観点別問題 - 授業中の行動観察 - 振り返りの記述内容 - テスト反省用紙の記述内容 - 宿題や提出物への取組状況 等

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価をもとに、5段階評定をつけます。

3年【理科】

教科の目標

自然の事物・現象に進んで関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究する力と態度を養うとともに、自然の事物・事象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身につける。

学習のしかた

- ・授業には積極的に取り組みましょう。
- ・観察や実験には、真剣にのぞみ、正確かつ丁寧に取り組みましょう。
- ・実験の予想や考察など、班での話し合いを大切にしましょう。
- ・実験・観察レポートやプリントなどの提出期限を守り、家庭での復習を大切にしましょう。
- ・疑問に感じたことはそのままにせず、質問に来てください。

授業で使用するもの

教科書、ノート、資料集、ワーク、定規、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

理科			
	学習すること		学習のねらい
1学期	運動とエネルギー	力のつり合い	水中にある物体には浮力がはたらくことを見だし、重力と浮力のつり合いの関係から、浮き沈みのしくみを理解する。作図によって合力を求めることができるようになる。分力の求め方を理解する。
		物体の運動物	記録タイマーなどを使って、物体の速さや運動のようすを調べる方法を身につけ、物体にはたらく力と運動の関係を理解する。
		仕事とエネルギー	力学的な仕事の定義を理解し、仕事の原理を見いだす。また、エネルギーを理解し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと、物体の高さや質量、速さとの関係を見いだす。摩擦や空気の抵抗がなければ、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解する。
		多様なエネルギーとその移り変わり	身のまわりのさまざまなエネルギーについて気づき、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解するとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解する。
		エネルギー資源とその利用	人間は多様なエネルギー資源を消費して活動していることを知り、将来にわたってエネルギー資源を確保し、安全で有効な利用と環境保全をはかることの重要性を認識する。
	生命の	生物のふえ方と成長	生殖の観察などを通して、生物のふえ方には無性生殖と有性生殖の2つがあることを見だし、その違いを理解する。また、種子から根がのびる様子の観察や、細胞分裂の観察を通して、生物の成長を細胞分裂と関

	連 続 性		連づけて捉えるとともに、有性生殖における減数分裂について理解する。
		遺伝の規則性と遺伝子	生物がふえていくとき、染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わることを、そしてその伝わり方に規則性があることを理解する。
		生物の種類の多様性と進化	現存の生物や化石の比較などを通して、現存の多様な生物は過去の生物が長い時間の経過の中で変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連づけて理解する。また、生物の間のつながりを時間的に見ることを通して進化の概念を身につける。
2 学 期	化 学 変 化 と イ オ ン	水溶液とイオン	水溶液の電気伝導性を調べる実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解する。次に、電解質水溶液の電気分解の実験を行い、電極に物質が生成することからイオンの存在を見だし、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。
		電池とイオン	金属イオンについての実験を行い、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見だし、イオンのモデルと関連づけて理解する。また、電池を製作し、電池では化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づくとともに、イオンのモデルを用いて電池の基本的なしくみを説明できるようになる。さらに、様々な電池が使われていることを知る。
3 学 期	宇 宙 を 観 る	酸・アルカリと塩	酸やアルカリの水溶液を用いた実験を行い、酸やアルカリのそれぞれの性質が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いだすとともに、電離のようすをイオンのモデルを用いて説明できるようになる。また、中和反応の実験により、酸とアルカリが反応すると塩と水ができることを見いだすとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようになる。
		地球から宇宙へ	太陽の観察記録や資料から、太陽の形や大きさ、表面の様子などの特徴を見いだして理解したり、観測資料などから、惑星と恒星の特徴や太陽系の構造を理解するとともに、太陽の表面を観察したり記録する技能を身につける。
		太陽と恒星の動き	太陽や星座の日周運動の観察データなどから、天体の日周運動が地球の自転による相対運動であることを理解するとともに、季節ごとの星座の位置の変化や太陽の南中高度の変化を調べ、それらの観察記録を地球が公転していることや地軸が傾いていることと関連づけて理解し、天体の動きを観察する技能を身につける。
		月と金星の動きと見え方	月や金星の観察記録などから、見え方を月や金星の公転と関連づけて理解するとともに、月や金星の動きや形を観察したり記録したりする技能を身につける。
	自 然 と	さまざまな物質の利用と人間	日常生活や社会では、さまざまな物質が使用目的や用途に応じて使い分けられていることを知り、物質を有効利用するためには、物質の再利用などが大切であることに気づく。

	人 間	科学技術の発展	科学技術の発展の過程について、どのようなものがあるかを理解し、 さまざまな科学技術の利用が人間の生活を豊かで便利にしていることを 知る。また、最新の科学技術について調べ、これからの科学技術の発 展の方向性を、科学的根拠をもって検討する。
--	--------	---------	---

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	・ 定期テスト （中間・期末・学年末） ・ 授業中に行う各種テスト ・ 実験・観察レポート ・ 自由研究
思考・判断・表現	・ 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する。	・ 定期テスト （中間・期末・学年末） ・ 授業中に行う各種テスト ・ 実験・観察レポート ・ 授業での発表内容 ・ 自由研究
主体的に学習に取り組む態度	・ 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。	・ ノート、ワーク、プリントの取り組み状況 ・ 活動の様子 ・ 自由研究 ・ 授業中に行う各種テスト

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通り場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

理科室の使い方



理科室に入ったら…

- ・席は決められた場所に座りましょう。
- ・走り回ったり、遊ぶことがないようにしましょう。

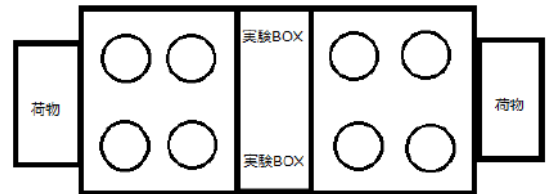
授業開始！

- ・安全に実験をおこなうためにも、先生の指示をきちんと聞きましょう。
(危険な薬品を使用する場合があります。)

- ・理科準備室は生徒立ち入り禁止です。

実験時…

- ・実験開始前にぬれた雑巾を準備しましょう。
- ・実験めがね等着用する場合は、きちんと着用しましょう。
- ・実験机の上は必要最低限のものだけにし、
実験机横のロッカーに荷物を置きましょう。
- ・実験BOXは水道の上に置きましょう。
- ・実験中は原則イスを実験机の下にしまい、
立って行いましょう。
- ・実験器具は大切に使いましょう。
万が一、実験器具を破損した場合やケガをしてしまった場合は、
速やかに先生に報告しましょう。
- ・班で協力して取り組みましょう。



実験終了！

- ・片づけは先生の指示に従いましょう。
実験器具を洗う場合はきちんと洗浄しましょう。

- ・次のクラスが気持ちよく使えるように実験机はきれいにしておきましょう。

※ルールを守れない人がいた場合、実験ができなくなってしまう場合もあります。
みんなで安全に実験ができるよう協力して頑張りましょう！

3年【音楽】

教科の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

学習のしかた

- ・授業前に準備物を確認し、チャイム着席をする。
- ・【本時のめあて】を確認し、目標を持って授業に取り組む。
- ・個人の活動、グループ練習、全体練習などは、目的意識を持って積極的に取り組む。
- ・自分のイメージや思いを仲間に自信を持って伝えたり、仲間の意見もしっかりと聴いたり良さや違いを認め合う。
- ・振り返りシートに【本時のめあて】が達成されたか、何を学ぶことができたか等を記入する。
- ・自分が使用した机やイスは整頓してから教室に戻る。イスは必ず上にあげて、イスの靴下を4つはめる。

授業で使用するもの

- | | | |
|----------------|---------|---------------|
| ・音楽の教科書（2・3年下） | ・器楽の教科書 | ・Joyful Songs |
| ・音楽ファイル | ・筆記用具 | |

年間学習計画と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	*オリエンテーション *呼吸法、発声法 1 歌唱「花」 2 鑑賞「ボレロ」 3 創作 「リズムアンサンブルをつくろう」 4 合唱コンクールへの取り組み 学年合唱曲	○授業を受けるためのルールや目標等を理解する。 ○歌唱に必要な呼吸や発声を身に付ける。 ○情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱する。 ○楽器の音色に親しみながら、オーケストラの響きを味わう。 ○ポピュラー音楽のよさを聴き、音の特徴や重なりを感じて構成を工夫する。 ○声の音色や響き及び言葉の特性に気を付けながら合唱する。
2 学 期	5 合唱コンクールへの取り組み 学年合唱曲 クラス曲 6 鑑賞曲「ブルタバ」 7 創作 「まとまりのある旋律をつくろう」	○歌詞の内容や表現方法を話し合い、創意工夫し、自分たちがイメージしたクラス合唱を作り上げる。 ○作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わう。 ○自分がイメージしたものを、音楽を形作っている要素と関連させながら作曲する。
3 学 期	8 鑑賞「能」 9 歌唱「卒業式式歌」 10 まとめ	○日本の伝統芸能に親しみ、その音楽を味わう。 ○中学校生活最後の合唱にふさわしい合唱曲に仕上げる。

評価方法及び評定について

○評価方法…3 観点を ABC で表し、1～5の評定をつけます。

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能 ・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	活動の様子 歌唱・演奏の様子 鑑賞の様子 定期テスト 実技テスト 各種プリントの内容や感想文 振り返りシート
思考・判断・表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	
主体的に学習に取り組む態度 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。	

3年 【美術】

教科の目標

表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 形や色彩、材料、光の性質など、ものごとをとらえるときの視点について理解する。表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 作品のよさや美しさ、表現の意図や工夫などについて考え、作品に生かすことができるようにする。豊かに発想して作品のアイデアを練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う。表現や鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造的活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

学習のしかた

- ・ 準備物を確認し、チャイム着席で授業にのぞむ。
- ・ 私語を慎み、集中して制作に取り組む。
- ・ 本時のめあてや制作のポイントを的確に把握し、課題に対して主体的に取り組む。
- ・ 創作活動を振り返り、今後の創作に生かせるようにする。
- ・ 他者の意見や作品を参考にしながら創意工夫して、作品を制作する。
- ・ 技法や用具などの基本的知識を理解し、自分なりの表現方法を創意工夫する。
- ・ 美術資料集などで知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるようにする。
- ・ 作品に対しての自分たちの意見を伝え合いながら、協力して学習に取り組む。

授業で使用するもの

教科書 資料集 スケッチブック レタリング字典 鉛筆 ファイル
※デザインセット ※色鉛筆

※については、課題に応じて準備する。

年間学習計画と学習のねらい

題材		学習すること
1 学期	1 ガイダンス	☐ 美術の授業における「ルール」や「心構え」を確認する。
	2 絵（自画像）	☐ 自分を見つめて考えたことをもとに主題を生み出し、作品の構想を練り、適切な材料や技法を選択し、表現する。
	3 鑑賞	☐ 作品の良さや、美術の歴史に触れる。 ☐ 完成した作品を鑑賞し合い、自分の感じたこと発表する。
2 学期	1 彫刻	☐ テーマをもとに「質感」「形」などにこだわり、デザインを考える。 ☐ 考えたデザインをもとに立体にする。
	2 鑑賞	☐ 作品の良さや、美術の歴史に触れる。 ☐ 自分の関心のある美術作品の魅力を紹介する。
	3 デザインや工芸 （卒業記念作品）	☐ テーマからイメージを膨らませ、デザインの構想を考え、表現する。
3 学期	1 デザインや工芸 （卒業記念作品）	☐ テーマからイメージを膨らませ、デザインの構想を考え、表現する。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	形や色彩、材料、光などの性質や、さまざまな技法や用語など造形的な視点について理解できているか。意図に応じて、身につけた表現方法を十分に活用し表現できているか。	- 作品（制作過程含む） - 定期テストの観点別問題 - ワークシート等
思考・判断・表現	これまでに学んだことについて独創的・総合的に考え、工夫して、作品に生かすことができるか。作品についての主題を豊かに発想し、構想を練ることができるか。美術文化に触れたり、美術作品などを鑑賞したりすることで、作品についての見方・考え方を深めることができたか。	- 作品（制作過程含む） - 定期テストの観点別問題 - 鑑賞の発言や記述 - ワークシート等
主体的に学習に取り組む態度	美術について主体的に関わる姿勢を持ち、授業に取り組むことができているか。表現、鑑賞活動の制作過程において、よりよい作品を制作しようと調整や工夫をおこなおうとしているか。お互いの個性を生かしあい、協力して制作できているか。	- 授業中の発言・行動 - ワークシートや振り返りの記述 - 表現や鑑賞への取り組み方

3年 【保健体育】

教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

学習のしかた

- 時間を守る。
- 集合・整列を素早く行う。
- あいさつをきちんと行う。
- 服装をきちんと整える。
- 安全に気を配って活動する。
- 運動を積極的に行う。
- 技を工夫し、練習する。
- 自己の能力に合った技を正確に行う。
- 基本的技能を理解する。
- ルールや試合の運営方法を学び、ゲームに親しむ。
- 日頃から健康管理を心がけ、日々の授業に集中できるようにする。

≪事故や怪我などを防止するために≫

- ・ 事故や怪我などを防止するために、授業の前に自己の健康状態を確認しよう。
- ・ 練習や試合をするにあたっては、自己の健康状態や体力を十分理解し、施設・用具等の安全を確かめよう。
- ・ 運動の難易度や自己の技能の程度を知ってから行いましょう。

授業で使用するもの

体操服、運動靴、体育館シューズ、教科書、中学体育実技、ファイル

年間学習計画と学習のねらい

	学習する内容	学習のねらい
1 学 期	○体づくり運動 ○集団行動 ○新体力テスト ○球技(テニス・バスケットボール) ○器械運動(マット運動) ○水泳 ○体育理論 ○保健 (健康な生活と病気の予防)	・自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしや体力の向上をねらいとする。 ・集団として必要な行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにする。 ・運動をする時には、自己の体力と適性を知ることが必要である。従って、自己の体力の現状を正しく理解する。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ・ゴール型では、安定したボール操作を身に付け、チームで攻撃や守備の作戦を立ててゲームができるようにする。 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができるようにする。 ・水泳では、自己にあった泳法でより速く、より長く泳ぐことができるようにする。 ・運動やスポーツの合理的な実践を通して、運動やスポーツへの多様な関わり方を身に付ける。(※) ・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解する。
2 学 期	○陸上競技(跳躍) ○器械運動(跳び箱) ○武道(剣道) ○球技(ソフトボール) ○ダンス ○陸上(長距離走) ○体育理論 ○保健(健康な生活と病気の予防)	・走幅跳では、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走高跳では、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作でとぶことができるようにする。 ・繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うことや条件を変えた技や発展技を行うことができるようにする。 ・相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したボール操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。 ・ダンスでは、仲間と協力して、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりをつけてリズムにのって全身で踊ることができるようにする。 ・特定の長い距離を速く走り、記録の向上をねらったり競争したりする。 ・(※)と同じ。 ・性感染症の疾患概念や感染経路について理解できるようにする。感染リスクを軽減する効果的な予防方法を理解することができるようにする。
3 学 期	○球技(卓球・バドミントン) ○体育理論 ○保健(健康と環境)	・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・(※)と同じ。 ・人間の健康は、個人を取り巻く環境から深く影響を受けており、健康を保持増進するためには心身の健康に対する環境の影響について理解できるようにする。

※年間を通して、各単元で「体育理論」を行う。

※他学年との場所の調整や学校行事・天候等により、上記にあげた種目を変更する場合があります。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。 個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。	授業での発言及び内容 定期考査 行動観察 実技テスト
思考・判断・表現	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。 個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	行動観察 授業での発言及び内容 自己評価・学習カード 見学者レポート 定期考査
主体的に運動に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとする。 個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	行動観察 授業での発言及び内容 自己評価・学習カード 見学者レポート

3年 【技術・家庭科】

教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を目指す。

<技術分野>

- 1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- 2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- 3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

<家庭分野>

- 1) 家族、家庭の機能について理解を深め、家族・家庭で、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けけるようにする。
- 2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- 3) 自分と家族・家庭生活と地域とのかかわりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習のしかた

- ・授業の準備物をチャイムが鳴るまでに用意して着席しておく。
- ・人の話をしっかり聴いてさまざまな見方・考え方を知り、授業に主体的に取り組む。
- ・学習プリントやワークの記入・課題の取り組みをしっかりと行ない、期日までに提出する。（※切厳守）
- ・実習や作業の時は、指示のあった服装で取り組み、準備物は忘れない。
- ・作業内容をよく理解し、周りの人と協力しあい、正確で丁寧な作業に心がける。
- ・安全に留意し道具や工具、機器を適切に使用し、自分勝手な行動をしない。
- ・与えられた課題に対し、しっかり取り組む。

授業で使用するもの

- ・教科書（ハンドブック） ・ファイル ・学習プリント（ワークシート）
- ・技術実習時：体操服で行ないます。
- ・調理実習時：エプロン、三角巾、マスク、ふきん3枚、手拭タオル1枚など。
- ・教科書とファイルは3年間使用するので紛失しないこと。

年間学習計画と学習のねらい

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
1 学 期	《エネルギー変換の技術》 ○エネルギー変換の技術を見つけよう ○機械に関する技術を見つけよう ○問題を解決する工夫を考えよう ○保守・点検のしかたを知ろう ○電気の安全な使い方を知ろう ○発電について知ろう	・生活や社会で、エネルギーが利用されている例を見つける ・生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術を見つける ・機械には共通した規格の部品があることを知る ・機械には動力を伝達するしくみがあることを知る ・目的や条件に合わせて、エネルギー変換の技術がどのように工夫されているかを見つけ、考える。 ・機械や電気機器には、保守・点検が必要であることを知る ・製品には、正しい使用方法があることを知る ・電気機器などの定格表示や安全に関する表示の意味、適切な使用方法を知る ・屋内配線のしくみが分かり、漏電、感電、過熱および短絡による事故を防止できる ・電流には直流電流と交流電流があることを知る ・送電のしくみや、様々な発電方式があることを知る
2 学 期	《エネルギー変換の技術》 ○電気に関する技術を知ろう ○実習の安全な進め方を知ろう ○設計のしかたを知ろう ○設計に沿った製作をしよう ○社会の発展とエネルギー変換の技術	・電気回路の基本的なしくみを知る ・電気や運動、熱などの特性に合わせてエネルギーを変換する技術があることを知る ・安全に実習するために必要なことを知る ・設計を生かして問題を解決する手順を知る ・5つの部分から、目的や条件に合うように、製作品の設計を考える ・使用目的や条件に合う部品を選び、自分の製作品を設計できる ・設計に沿って、安全で正確に製作できる ・使用目的や条件に合う製作品や模型を完成できる ・学習をふり返り、エネルギー変換の技術の、これからの未来における役割や影響、誠実な生かし方を考える
3 学 期	《情報の技術》 ○双方向性のあるコンテンツの技術を知ろう ○双方向性のあるコンテンツの設計のしかたを知ろう ○設計を図で表す方法を知ろう ○設計に沿った双方向性のあるコンテンツを制作しよう ○社会の発展と情報の技術	・情報通信ネットワークでの情報の利用について知る ・設計を通して問題を解決する方法や手順を知る ・使用目的や条件に合わせて自分の制作品の設計を考える ・処理の流れのかき表し方を知り、制作に必要な図をかくことができる ・使用目的や条件に合う作品を設計・制作できる ・設計に沿って、安全で正確にプログラムの作成、保存、動作確認、デバッグができる ・学習をふり返り、エネルギー変換の技術の、これからの未来における役割や影響、誠実な生かし方を考える

年間学習計画と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	<私たちの住生活> ○住まいの働きを知ろう ○家族が暮らしやすい住まい方を考えよう ○健康を守る室内環境の整え方を考えよう ○家庭内事故から家族を守ろう ○調理実習	・住まいの基本的な働きについて理解する。 ・家族が気持ちよく住まうための工夫を考えることができる。 ・健康を守るために室内環境を整えることが大切であることを理解し、整え方を考えることができる。 ・家庭内事故を防ぐための工夫や対策を考えることができる。 ・身近な食材を調理できる。
2 学 期	<私たちの消費生活> ○消費者としての自覚を持とう ○販売方法と支払い方法について知ろう ○商品の選択と購入について考えよう ○消費者トラブルを解決する方法を考えよう ○消費者の権利と責任について考えよう ○環境に配慮した消費生活の工夫	・さまざまな販売方法や支払い方法の利点を活用し、購入方法を工夫し、適切な行動をとることの大切さがわかる。 ・自分や家族にとって身近な消費者トラブルの事例とその解決方法を理解できる。 ・消費者の権利と責任について理解できる。 ・自分の生活をふり返り、環境に負担をかけないための生活の改善や工夫ができる。
3 学 期	<私たちの消費生活> ○消費生活の課題と実践 ○3年間のまとめ	・自分の生活を振り返り、自立した生活者としての視点をもって、今後の生活を考えることができる。

評価方法及び評価について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・ 技能	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めている。 衣食住や家族の生活、消費生活などについて、生活の自立に必要な基礎的・基本的な機能について理解をして、適切な選択や用具の安全な取り扱い、適切な製作ができる技能が身に付いている。	○定期テスト ○実習への取り組み方 ・実習作業の様子 ・作品の精度 ○学習プリントの内容
思考・ 判断・ 表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を身に付けている。 衣食住や家族の生活、消費生活などについて、これからの生活を展望し、家族・家庭や地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている	○学習プリントの内容 ○実習への取り組み方 ○定期テスト
主体的に 学習に取り組む態度	主体的に材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について考え、理解しようとしている。また、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとしている。 衣食住や家族の生活、消費生活などについて、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	○学習プリントの内容 ○学習プリントや宿題の提出・整理状況 ○授業の準備 ○授業態度・発表内容 ○実習への取り組み方 ○定期テスト

その他

観点別評価は、技術分野での評価と家庭分野での評価を合わせ、総合的に評価します。

評価は評価表に基づいてつけます。観点により、比重が異なることがあります。

3年 【英語】

教科の目標

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学習のしかた

- ・積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかり聞く。また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・授業中のペアワークやグループ活動に積極的に取り組む。
- ・ノートやワークシート等は、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・粘り強く課題に取り組み、新出事項を覚えるようにする。

授業で使用するもの

教科書、ノート、ワークセット、ファイル、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学期	・ 現在完了 ・ 第5文型、第4文型（that 説を含む） ・ 不定詞の注意すべき用法	現在完了や現在完了進行形を含む文を正しく理解し、使えるようになる。 call A+B, make A+B や show 人 that~, teach 人 that~ を正しく理解し使えるようになる。 It~to を含む文を正しく理解し、使えるようになる。want 人 to, how to~, let/help 人~ を含む文を正しく理解し、使えるようになる。
2 学期	・ 間接疑問文 ・ 後置修飾（現在分詞・過去分詞・接触節） ・ 関係代名詞 ・ 仮定法	間接疑問文を含む文を正しく理解し、使えるようになる。 後置修飾を含む文の基本情報を理解し、正しく使えるようになる。 関係代名詞を含む文を理解し、正しく使えるようになる。 仮定法を含む文を理解し、正しく使えるようになる。
3 学期	・ 3年間のまとめ	3年間で学んだ文法の総合的な復習をする。設定された論題に関して意見を述べたり書いたりできるようになり、学ぶ意義について考える。

授業の受け方





やす じ かん
休み時間のうちに・・・



つぎ じゅぎょう じゅんび
★次の授業の準備をしよう！

やす じ かん つぎ じゅぎょう じゅんび
休み時間のうちに次の授業の準備をしましょう。

きょうしつ どう ばあい すみ いどう
教室移動がある場合は、速やかに移動しておきます。トラブルのもとになるので、
わす 物 ひと か じゅぎょう はじ
忘れ物をして人に借りないようにしましょう。授業が始まってからロッカーへ用意
と い いう わす たんとう せんせい きょか え
を取りに行くのもNG。もし、用意を忘れてしまったときは、担当の先生から許可を得て、
ほか ひと ま いそ じゅんび
他の人を待たせないように急いで準備しましょう。



な
チャイムが鳴ったら・・・

★あいさつをしよう！

じゅぎょう せんせい みな いっしょ きょうりょく あ
授業は先生と皆さんと一緒に作るものです。協力し合う
せんせい なか ま た い じゅぎょう はじ お こえ
先生と仲間に対して、授業の始まりと終わりにはしっかり声を
だ
出してあいさつしましょう。

つくえ みぎがわ いっぽ で
あいさつのときは、机の右側に一歩出ます。



じゅぎょうちゅう
授業中は・・・ 主体的に学ぼう！

しゅたいてき まな ちから み
主体的な学びで、どんな力が身につくの？

しゅたいてき まな した ちから み
主体的な学びでは、下のような力が身につきます。

★自分^{じぶん}で課題^{かだい}を見つけ、解決^{かいけつ}する方法^{ほうほう}を^{かんが}考える^{ちから}力

★新しい^{あた}情報^{じょうほう}や技術^{ぎじゆつ}を、積極^{せっきよく}的に^{てき}学^{まな}ぶ^{ちから}力

★様々^{さまざま}な人^{ひと}と協^{きょうりょく}力^{りょく}して、新^{あた}しいもの^うを生^だみ出^{ちから}す力

★めあてを^{もと}元に、授業^{じゅぎょう}の見通^{みとお}しを^{もと}もう！

めあてを^{いしき}意識^{ひつよう}し、必要^{じょうほう}な情報^なは^{かんが}何^とか考^くえ^{かだい}よう。そして、どのよう^とに取^くり組^くめば課^{かだい}題^{だい}
かいけつ む みとお も
解決^{かいけつ}に向^むかっていけるか、見通^{みとお}しを持^もちましよう。

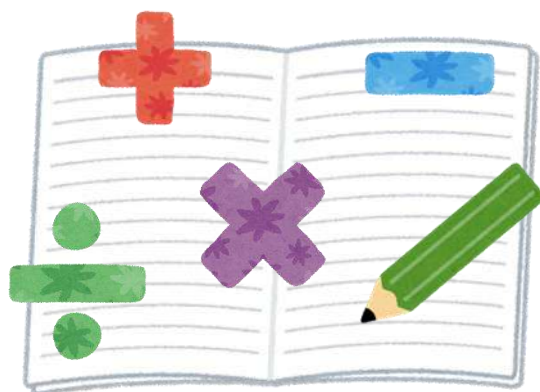
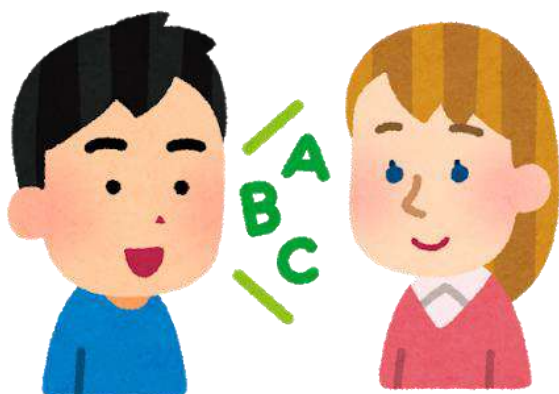
★自分^{じぶん}の目^{もく}標^{ひょう}にあ^{まな}った学^{かた}び方^{えら}を選^くんだ^くり工^く夫^{ふう}し^くたりし^くよう！

授業^{じゅぎょう}で出^だされた課^{かだい}題^{だい}に取^とり組^くむと^くきに、どのよう^{まな}に学^{じぶん}ぶと自^{もく}分^{ひょう}の目^あ標^あに合^あって^あいる
か考^{かんが}えて、取^とり組^くもう。例^{たと}え^{かだい}ば、そ^{かいけつ}の課^{かだい}題^{だい}を解^{かい}決^{けつ}するた^{こじん}め^とには、個^く人^{かんが}で取^くり組^くむか、複^{ふく}数^{すう}人^{にん}で取^とり組^くむか選^{えら}んだ^{すうにん}り、複^{ふく}数^{すう}人^{にん}で取^とり組^くむ際^{さい}には、誰^{だれ}と取^とり組^くむとよ^{かんが}い^{かんが}か考^{かんが}え^{かんが}たり
りして^{かんが}ましよう。

★自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそう！

学習内容を文章や言葉で振り返ったり、確認問題に取り組んだりすることで、授業の内容を確実に理解できるように努めよう。毎回の授業をしっかりと振り返ることで、より授業の内容が定着しますよ。また、前の授業の振り返りから次の授業へつなげる部分を見つけ出し、理解を深めよう。

かていがくしゅう てび 家庭学習の手引き



なぜ家庭学習が必要なのだろう

中学校では・・・

- ・ 学習内容が多様になり、**自ら課題を見つけ解決する力**が必要になります。
- ・ **筋道を立てて考える力**や**広い視野で物事を見る力**がさらに必要になります。
- ・ 新しく学習したことを覚えるだけでなく、**生活に関連づけて自分の考えを言えること**が必要になります。
- ・ 自分の特性を理解してくるとともに、得意な教科・苦手な教科がはっきりとしてきます。

家庭学習をするとどうなるのだろう

- ☆好きなことが見つかる。
- ☆自分の考えが持てるようになる。
- ☆将来の選択肢が広がる。

家庭学習はどんなことをすれば良いのだろう

- ① 学習内容の定着を図るために、**復習**をしましょう。
- ② 今後の学習内容の見通しを持ち、授業に主体的に取り組むために、**予習**をしましょう。
- ③ 自分の関心のあること、より深く理解したいことについて、**自主学習**をしましょう。
(本や新聞を読んだり、辞典や図鑑を手にとって調べてみたりすると良いですね。)

家庭学習はどのようにすれば良いのだろう

家庭学習は「**習慣化**」することが大切です！ そのために・・・

- ① 何ができるようになればよいか、**目標**を明確に設定しましょう。
- ② 落ち着いて、学習に集中できる**環境とルール**をつくりましょう。
- ③ 「早寝・早起き・朝ごはん」の**基本的な生活習慣**を確立しましょう。
(家の仕事の手伝いをすることも大切です。)

明確な目的と目標の設定

家庭学習の習慣化

学習環境とルールづくり

基本的な生活習慣の確立

家庭学習の6つのポイント

★目的と目標を設定する

- ・何ができるようになれば良いのか（目的）を決めましょう。
- ・目的の達成に向けて、何をするのか（目標）を決めましょう。

★家で勉強する時間を決めておく

- ・帰ってから勉強を始める時間を決めましょう。
- ・どれだけの時間勉強するのかを決めましょう。

※「部活動のある日」「部活動のない日」「塾などのある日」「休日」で勉強時間の基本的な計画を作っておくとよいです。

★机や身の周りのものを片付ける

- ・学習場所には、学習に必要なものは置かないようにしましょう。

★「ながら勉強」はしない

- ・テレビを見ながら、スマホ等を使いながら…といった学習のしかたはやめて、学習に集中しましょう。

★最初に「宿題」をする

- ・宿題は後回しにすると、結局できなくなることがあります。苦手な教科でも、必ず帰ったら宿題を最初にすることが大切です。
- ・出た宿題や課題は、提出日までに必ず仕上げましょう。

★答えを覚えるのではなく、考え方を覚える

- ・なぜそうなるのか、どうしたら解けるのかを理解しましょう。
- ・ワーク等の答え合わせをするときには、解説をよく読みましょう。

国語

中学校の国語において身につけたい力は、全部で4つです！

具体的には、「話す力・聞く力」「書く力」「読み取る力」「国語の知識」になります！

しかし！！どの力をつけるにしても根幹にある大切な力があります。

それが、語彙力（「どれだけ多くの言葉を知っているか」、「どれだけ言葉を使いこなせるか」に関する能力）です！！

国語という言語教科を学習するにあたって、語彙力は必要不可欠な力になります。

家庭学習をや読書を通して、少しでも多くの言葉に触れ、語彙力を高めていきましょう！！！！

1 家庭学習について

家庭学習では主に普段学習している単元や作品に関する語彙（言葉・語句）について学習しましょう。

①漢字の学習をする。

音・訓などの読み方はもちろん、筆順・部首などにも注意しながら書けるようにしましょう。

その漢字を使った短文を作るなど、使い方も覚えましょう。

②意味調べをする。

学習する単元や作品の中でわからない言葉があれば、意味調べをしておきましょう。

知っている言葉でも、調べてみると意外と間違っている使用していることに気づくこともあります。

③音読をする。

特に古典などの作品を学習しているときは、古典特有の言い回しや区切り方があるので、

教科書を音読し、さまざまな感覚（視覚、聴覚）を活かして学習していきましょう。

2 定期テストの対策について

①本文を何度も読む。

テスト当日、本文を一から理解しながら読んでいると、時間が足りなくなってしまうことがあります。あらかじめ範囲がわかっている本文は何度も読んでおき、どこにどんなことが書いてあるかを理解しておきましょう。

②漢字の練習をする。

繰り返し書いた後、自分でテストをするなど覚えているかどうかの確認をしましょう。何回書くとよいかは人によって異なります。自分に合った覚え方を見つけましょう。

③知識に関する内容の復習をする。

文法や表現技法、作品・作者、古典に関する知識は、便覧・資料集やワーク、ドリルパークなどで繰り返し復習をしましょう。

④原稿用紙の使い方を確認する。

段落の作り方や、符号（句読点やかぎなど）の書き方を便覧・資料集で確認しておきましょう。

3 アドバイス

上記で触れたこと以外に自主的に学習しておいた方が良いものを紹介します。

- | | | | |
|------|-------------------|-------|-------|
| ①慣用句 | ②熟語（四字熟語・熟語の構成など） | ③ことわざ | ④故事成語 |
|------|-------------------|-------|-------|

この4つは、学習しておかないとなかなか身に付きません。授業や読書をする中で新しい表現に出会った時に、便覧・資料集で確認したり調べたりして語彙を増やしていきましょう。定期テストだけでなく、実力テストや受験などでも問われることが多いので、日常生活の中で意識してこれらの言葉を使い、豊かな表現力を身に付けましょう！！



社 会 科

1 家庭学習

●地理的分野の学習方法

- ・地図を頭に入れることが大切です。世界地理の場合は州ごとに、日本地理の場合は地方ごとに、略地図を描いてみましょう。そこに、地形や気候、盛んな産業、重要語句などを書き込むとより効果的です。



●歴史的分野の学習方法

- ・「時代の流れ」をきちんと頭に入れることが大切です。そのために、歴史年表を作ることが効果的です。授業で習ったところを中心に略年表を作ってみましょう。「いつ、どこで、だれが、何のために、何をしたか」を書き加えると、より時代の流れを整理しやすくなります。余裕があれば、日本と海外の流れをリンクさせるとより効果的です。

●公民的分野の学習方法

- ・公民は現代社会の動きと関わっている部分がとても多い分野です。世の中の動きを知るために、新聞を読んだり、ニュースを見たりする習慣を身につけましょう。議院内閣制や三権分立などは、図式化すると関係性がわかりやすくなり、効果的です。

2 定期テストの勉強のしかた

- ・まずは、重要語句（教科書の太字）を覚えましょう。教科書を繰り返し音読し、何度も書き写しましょう。
- ・教科書や資料集にある資料の読み取りをしましょう。資料からわかることやどのような変化が見られるかなどを中心に読み取りましょう。
- ・学校で使っているワークに繰り返し取り組みましょう。何度も復習することが大切です。

勉強中です



3 アドバイス

- ・自主学習ノートを作り、授業があった日に復習しましょう。
- ・教科書を5～6回、声に出して音読しましょう。
- ・学校で使っているワークに取り組みましょう。
- ・重要語句を文で説明すると、記述問題の練習になります。

数 学 科

1 家庭学習

(1) 毎日の家庭学習

- その日の授業でノートに書いたことがきちんと理解できているか見直します。
- 授業中に行った練習問題（教科書の例題や問い）に、繰り返し取り組んだり、習った範囲のワークを進めたりするなど、反復練習をしましょう。

(2) 自主学習

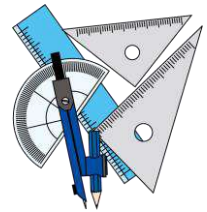
- 応用・発展的な課題に取り組みましょう。
- 教科書やワークに掲載されている応用問題や発展問題に取り組みます。教科書の後ろの「自分から学ぼう編」を活用するのもよいでしょう。また、過去の入試問題に取り組むのも力をつける方法の1つです。自分で問題が作れるようになると、さらに様々な力が定着します。

- ※自主学習ノートには、取り組んだ日・問題のページ・問題番号も書いておきましょう。
- 時計を見て、問題を解く時間を計りながら取り組むと、集中力UP!につながります。

2 定期テストの勉強のしかた

数学では、「はかせどん（速く、簡単に、正確に、どんなときも）」で解けるようになることが必要です。出題される学習内容を、もう一度自分で解き直し、解けるようになるまで練習しましょう。また、うっかりミスをなくすために、これまでの学習の中で、自分がミスをしたところを思い出せるノートをつくりましょう。そのノートは、自分にとっての最大のテキストになります。

テスト後は、テスト問題をやり直しましょう。間違った問題をそのままにしておいたら、力はずきません。テスト後は必ず自分の解答を振り返り、反省をしながら、間違った問題を解き直しましょう。その際は、なぜ間違ったのかを合わせてメモしておく、と、次のテストにつながります。

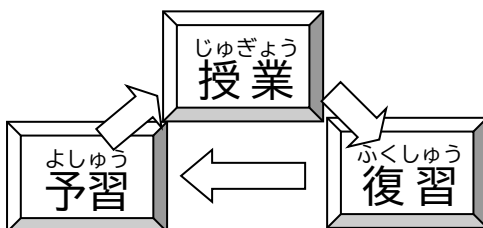


$$5a - a = 5 \quad \leftarrow \text{消さない}$$
$$\cancel{= (5-1)a}$$
$$= 4a$$

1a

3 アドバイス

下のようなサイクルで学習を進めていくと、より効果的な学習につながります！



- (1) 日頃から予習に取り組みましょう。
- (2) 授業では、予習をしたときになんとなく分かったつもりになっているものを特に集中して聞くようにしましょう！
- (3) 家に帰ったら復習しましょう。
- (4) 復習が終わったら、次の授業の予習をしましょう。



理科

1 家庭学習

<その1> その日に学習した教科書の内容を読み返そう。大切な用語だけではなく、写真や図も見返しましょう。

<その2> ノートを読み返そう。大切な用語を別のノートや紙に書いて覚えると効果的です。



き
気になったことは、コンピュータを活用したり、
かがくかん はくぶつかん りよう しら
科学館や博物館を利用して調べられるとさらに
よい
良いですね。

2 定期テストの勉強の仕方

宿題として取り組んでいるワークや学習プリントを自分の力でもう一度やり直しましょう。

「大切な用語」は、きちんと書いて覚えましょう。また、漢字で表記してある用語は、正しい漢字で覚えることが大切です。特にワークや学習プリントで間違えた問題は何度も繰り返し解いて覚えるようにしよう。

3 アドバイス

(X) ✓ (1) ➡ ✓ (X) ✓✓ (1) ➡ ✓✓ (X)

1回目で解けた 1回目で解けなかった 2回目で解けた 2回目も解けなかった 3回目に解けた

解けたら問題番号に「/」を書き、解けなければ「✓」を書いていきます。そうすれば、ぱっと見ただけで、どの問題が解けていて、どの問題が解けていないかわかるようになります。同じ問題集を繰り返し解いていくときは、「/」が入っていない問題だけ解いていきます。

この方法を使えば、一回目はすべての問題を解くことになりますが、二回目以降は解けた問題はとばしていくことになるので、スピードが上がります。わからない所を重点的に解いていくことができます。

えいご 英語科



1 家庭学習

- 学習する単語・語句がどんどん増えていきます。一度にたくさん覚えようとせずに、毎日の家庭学習や自主学習の中で、確実に覚える工夫をしましょう！！
- 自宅の学習では、chromebook等を活用して、教科書の単語の音声を聞いたり、わからない単語を調べたりすると効果的です。
- 実用英語検定（英検）や TOEIC などにもチャレンジしてみましょう。

2 定期テストの勉強のしかた

まずは基本文や新出語句・文法を覚えよう。それができたら、学んだことを使って場面設定や状況に応じた表現ができるような問題に取り組みましょう。

3 アドバイス

学年別アドバイス

1年 小学校で学習したことを中学校でも活用できるようにしましょう。そしてどんどん声に出して英語を読むようにしましょう。

2年 復習が大事です。今までに学習したことで分からないところを発見して、早めに克服しておきましょう。

3年 受験に向けて基礎基本を確認し、応用問題にもどんどん取り組みましょう。

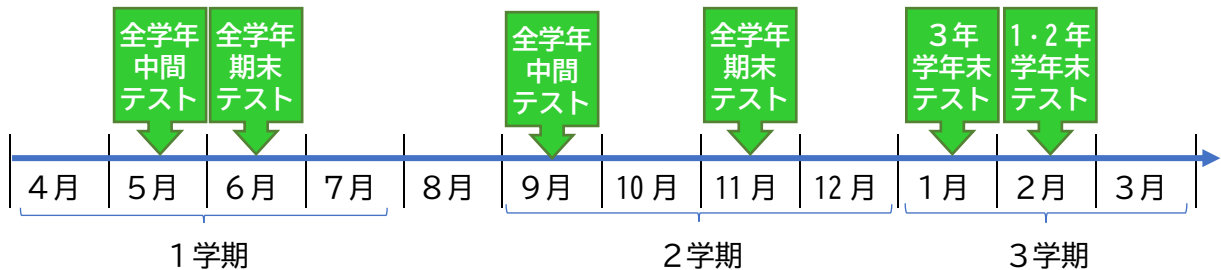
☆たくさんの英語に触れ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の力を伸ばしましょう！



定期テストに向けた勉強のしかた

定期テストとは

- ・学習内容の定着状況を確認するために行うテストのこと。
- ・神戸中学校では、年間5回行う。

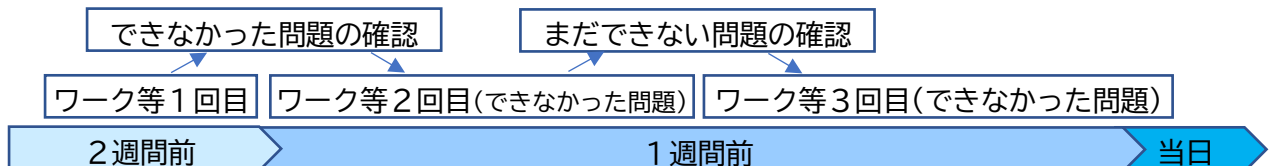


- ・中間テストは5教科（国・社・数・理・英）、期末テスト・学年末テストは全教科で行う。
- ・それぞれの定期テストは出題範囲が広いため、効率よく勉強をする必要がある。

定期テストに向けた勉強のしかた

①計画的に勉強しよう

- ・およそ2週間前から定期テストに向けた勉強を始めよう。
- ・テスト1週間前にはテスト範囲の発表があり、部活動が原則停止となります。さらに集中してテスト勉強に取り組もう。



- ・テスト直前に必死になるのではなく、毎日の授業に集中すること、毎日の家庭学習（予習・復習・自主学習）をコツコツ積み上げることが、最もよいテスト対策になります。

②教科書、ノート、ワークやプリントなどを使って勉強しよう

- ・教科書を何度も繰り返し読もう。
- ・ノートやワークシートを見直し、学習内容の重要なポイントを確認しよう。
- ・新出漢字や新出単語、重要語句などは、何度も書いたり、声に出したりして覚えよう。
- ・ワークやプリントの問題は繰り返し解こう。一度解いてわからなかった問題はチェックしておき、二度、三度とわかるようになるまで繰り返し解き直そう。

③わからないことは質問しよう

- ・わからないことがあれば、教科担当の先生に質問しよう。
- ・定期テスト直前には、教科担当の先生に質問ができる「放課後学習」が開かれます。積極的に活用しよう。

試験の受け方



- 1 机の落書きなどを事前に消しておく。
- 2 座席は出席番号順。
- 3 試験中は机の中には何も入れない。
- 4 筆記用具など必要な物のみ机の上に。神中バッグなどは全てロッカーの中。
鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、定規などのみ机上。
下敷きは不要。筆箱も不要。
- 5 休憩はトイレ休憩のみ。予鈴で着席していること。
- 6 試験監督の先生の指示で、室長は始まりの号令をかける。
- 7 試験監督の先生が問題用紙などを配付する間、私語をしない。
問題用紙は裏面を上にして配布するので、指示があるまで表面を見ない。
両面印刷してある問題用紙は、静かに机上に。
- 8 試験監督の先生の合図で問題用紙・答案用紙を表面にして、試験を開始する。
- 9 最初に問題用紙が指示通りに印刷されているか確認する。
その後、答案用紙に組、席、名前を忘れずに書く。
- 10 試験中は、私語は一切禁止。
試験中とは、試験監督の先生が教室に行ってから、答案用紙を集めて、室長が
終わりの号令をかけ終わるまでの間のことをいう。
- 11 消しゴム等を落とした場合、勝手に拾わずに挙手して試験監督の先生に知らせる。
- 12 早く問題が終わった人は、しっかりと見直しをする。
自分の答案用紙は他から見えないようにする。
- 13 試験終了の合図があったら、速やかに筆記用具を置く。
- 14 各列の最後尾の人は、答案用紙を出席順になるように集める。
各列の分がうまく出席順になるようにして、試験監督の先生に出す。
この際、手際よく集める。他の生徒は私語をしない。席を立たない。
- 15 試験監督の先生の指示で、室長は終わりの号令をかける。